

ふくしま 授産事業振興会だより

第24号

平成24年9月発行

(発行者)

福島県授産事業振興会

授産事業支援センター

<http://www.f-jusan.jp>

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111番地 TEL 024-523-1414 FAX 024-523-1432 E-mail: info@f-jusan.jp

***** 復興元年、今こそ知恵と英知で未来をつくろう *****

福島県授産事業振興会 会長 高 村 トミ子



会員の皆様こんにちは。

新しい年度が始まったと思ったら、もう5ヶ月が過ぎてしまいました。月日の経つのも早いですね。

昨年は3.11の大震災と原発事故以来、県内は勿論のこと近県の市町村にも及ぶ放射能の恐怖にさらされ、施設の復旧どころではなかったと思います。

皆様の施設ではいかがでしたか。ハード面はあちこちから助成があり、何とか修繕はできたことでしょうか、ソフト面では未だ収束の目処も立たない原発事故の後遺症で外での作業も制限されたり、仕事量が減ったりと精神的にも大変なことだったと思います。

大震災以降、当会には全国から授産製品の販売支援の手が差し伸べられ、全国各地で販売会を行っていただきました。

なかには、これからも継続して協力します。と大変ありがたいお言葉をかけてくださるところもあり、施設にとっては大きな励ましをいただき、改めまして、全国の仲間の皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。

また、今年度は、被災により授産製品の売上げの減少や生産活動が低下している施設を支援するため、県内に6名の震災復興支援員を配置し、それぞれの地域で施設と企業・官公庁等を繋ぐ役割を担って活動しておりますので、是非ご活用されますようお願いいたします。

さらには経営相談員による相談事業も実施しておりますので、施設の復旧計画や施設経営の課題について忌憚なくご相談していただきたいと思います。

最後に、この復興元年、会員が一丸となって知恵と英知を出し合って利用者の工賃向上に向けて頑張ろうではありませんか。

***** ご あ い さ つ *****

福島県保健福祉部次長兼障がい福祉課長 仲 沼 安 夫



本県の障がい福祉行政につきましては、格別なご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、今年度、福島県では、東日本大震災の影響を受けた事業所を支援するため販路拡大やマッチング支援、運営相談等を行う「障がい者就労支援事業所コーディネーター事業」、県内6圏域に復興支援員を配置し、施設の被災状況や企業・官公庁のニーズ把握、顧客への情報提供等を行う「授産施設等震災復興支援事業」、企業の経営手法への意識改革を推進する「経営意識向上研修事業」の3事業を福島県授産事業振興会に委託して行っております。是非、各事業所の課題解決のためにこれらの事業を活用し、取り組んでいただきたいと思います。

また、平成19年度より、「福島県障がい者工賃向上プラン」を策定し、工賃向上に向けて取り組んでまいりましたが、経済・社会情勢の変化や東日本大震災の影響等による課題に対応するため、工賃向上プランの改訂を進めており、今後、より一層力を入れて工賃向上及び一般就労への移行促進等に取り組んでいくことといたします。

厳しい状況の中での取り組みとなりますが、障がいを持つ方の工賃向上及び自立と社会参加の促進を図るために更なるご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げごあいさついたします。

第18回福島県授産事業振興会通常総会について

平成24年5月29日(火)に福島市の福島県総合社会福祉センターにおいて、第18回福島県授産事業振興会通常総会が開催されました。総会には、会員100名(委任状58名含む)が出席し、菊地洋子副会長が司会を務め、三浦正一副会長の開会のことばで進行しました。

はじめに、高村トミ子会長よりあいさつがあり、昨年の東日本大震災・原発事故により施設・事業所にとって苦難の1年であったこと、その中で全国から支援物資や義援金が届けられたこと、また、原発事故の風評被害で物が売れない時に全国の事業所・団体等から販売支援を申し出てくれた方々に感謝の意を述べられました。

次いで、来賓の仲沼安夫福島県保健福祉部次長兼障がい福祉課長(県保健福祉部長代理)、大川原公年福島県社会福祉協議会事務局長(県社協会長代理)から祝辞が述べられ、来賓紹介を行った後、岡崎立郎氏(はばたき園長)を議長に選出して議事が進められ、いずれも原案のとおり可決承認されました。

本総会の提出議案は次のとおりです。

- 報告第1号 震災復興支援金について
- 報告第2号 平成23年度福島県授産品直売所返済金の一括返済について
- 議案第1号 平成23年度一般会計事業報告書及び収入支出決算書について
- 議案第2号 平成23年度障がい者工賃水準底上げ事業報告書及び収入支出決算書について
- 議案第3号 平成23年度共同受注マッチングセンター事業報告書及び収入支出決算書について
- 議案第4号 平成23年度授産品直売所事業報告書及び収入支出決算書について
- 議案第5号 平成24年度一般会計事業計画書及び収入支出予算書(案)について
- 議案第6号 平成24年度障害者就労支援事業所支援コーディネーター事業及び授産施設等震災復興支援事業計画書(案)について
- 議案第7号 平成24年度障害者就労支援事業所支援コーディネーター事業収入支出予算書(案)について
- 議案第8号 平成24年度授産施設等震災復興支援事業収入支出予算書(案)について
- 議案第9号 福島県授産事業振興会定款の一部改正(案)について
- 議案第10号 福島県授産事業振興会会員規程の一部改正(案)について
- 議案第11号 福島県授産事業振興会理事の選任について



(総会)



(総会)

本総会での主な内容は次のとおりです。

- ・定款の一部改正は、福島県授産事業振興会理事の福島就業支援ネットワーク(団体推戴理事)が共同受注マッチングセンター事業の終了に伴い、理事辞退により構成員から除外するための改正です。
- ・福島県授産事業振興会会員規程の一部改正は、年度途中で一般会員に入会した場合の年会費の規定をあらたに設けるための改正です。
- ・福島県授産事業振興会役員の選任は、県及び団体推戴理事が人事異動及び組織の役員改選で欠員が生じたために、後任者を選任いたしました。選任された理事は次のとおりです。
 - ・新理事 仲沼 安夫氏(福島県保健福祉部次長兼障がい福祉課長)
(旧 稲村 忠衛氏 福島県保健福祉部障がい福祉課長)
 - ・新理事 村上 実氏(福島県知的障害施設協会会長)
(旧 古川 彰彦氏 福島県知的障害施設協会会長)

新規事業の紹介

福島県から受託して実施していた3事業が平成23年度で終了し、今年度あらたに3件を受託しました。そのうち、従来の「共同受注マッチングセンター事業」を引き継ぐ形で、施設の震災復興の支援にあたる2事業について、その概要を紹介します。

◆ 障害者就労支援事業所支援コーディネーター事業

当振興会にスタッフを配置して、中央の事業所団体との連携・調整、県外からの販売支援への対応、新たな発注元の開拓、マッチング支援等を行います。

また、経営相談員による震災復興に係る施設の運営相談や経営改善等の相談を行います。

◆ 授産施設等震災復興支援事業

「共同受注マッチングセンター事業」の企業開拓推進員に替わり、震災復興支援員を県内6圏域の会員施設等に配置して、施設の被災状況や支援ニーズの調査、顧客ニーズの把握や情報提供、授産製品・役務の取りまとめ等を行うとともに、施設と企業・官公庁とのマッチングを行います。

震災復興支援員からのメッセージ

○ 県北担当 児玉 福男（福島県授産事業振興会 福島市）

私は県北担当の震災復興支援員をしています児玉です。

私の仕事は、県北地区の障がい者施設の震災復興支援の他に県外からの支援販売の業務に携わっています。震災後、福島県の障がい者施設を応援するため、県外の障がい者施設、団体、個人、企業から、福島県の授産製品を購入して販売会を開催していただいています。全国各地から振興会にメールや電話で授産品の注文が入ります。経費（送料）を抑えるため、各方部の震災復興支援員と連携しながら、振興会本部に商品を集めて送っています。注文品のほとんどが食品なので、賞味期間や発送の際壊れないか、暑さで商品が傷まないかと大変気を使いながら梱包し発送しています。昨年度以降今年度に入ってもたくさんのご支援をいただいています。県外からご支援していただいている方々には大変感謝しています。また、私の担当、県北地区の企業の方々にも協力をしていただいています。社会貢献がしたいとわざわざ振興会に来所し、施設で作っているクッキー詰め合わせ250セットの注文を頂きました。他にもある企業では会社から表彰され、その時頂いた報奨金を社会貢献に使いたいと電話を頂き、沢山の授産品の注文をいただきました。私が忙しくなればなるほど、施設の授産品の売上が増え、施設の利用者のみなさんの工賃アップにもつながる、とてもやりがいのある仕事だと思います。これからも私の仕事がますます忙しくあって欲しいです。



○ 県中担当 寺田 香世子（共働作業所にんじん舎 郡山市）

今年の四月より復興支援員の県中担当になりました。郡山市の西部、田園風景の広がる共働作業所にんじん舎かたひら農場に事務所を置かせていただいています。利用者さんのにぎやかな声の中、みんなで一緒にお昼ご飯を食べる事が楽しみです。

初めての仕事の為毎日が勉強です。不安に思いながら悩みながらわからない事ばかりの毎日ですが、緊張しながらの訪問でも皆様にやさしい声を掛けて頂き何度ほっとした事か。皆様にいろいろと教えて頂きながらなんとか3ヶ月経ちました。本当に感謝しています。これからどうぞご指導の程よろしくお願い致します。私は、以前 就労継続支援B型と生活介護の施設に勤務していました。その時の事を思い出しながら、工賃向上に向けて務めていきたいと思っています。震災後、下請作業の減少などが続き厳しい福島県内ですが、以前の量に下請作業も戻りつつある物もあるそうです。県中では、農業系企業さんによる工賃の高い作業も舞い込んできました。現在、県中では新たに授産品の販売会を出店出来るようなイベントなども探しています。なにか情報がありましたら、どうぞ教えて下さい。利用者さんの適材適所にあった、個々の能力を活かした充実した時間が過ごせるようにと、いつも思い活動させて頂いています。



○ 県南担当 大平 精一（福島県矢吹しらうめ荘 矢吹町）

私は、以前は、養護学校の企業開拓員として、卒業生の就職先の支援をしていました。この仕事は、一般企業を訪問し、障がい者の理解を求め雇用をお願いする為、ひたすら歩き廻る事でした。でも、歩いているうちに、企業側もだんだんと理解してくださるようになり、私としては遣り甲斐がありました。

平成22年から福島県授産事業振興会にお世話になりましたが、活動し始めてすぐに戸惑いを感じました。それは、授産施設が思っていた以上に、たくさんあるのと、いろんな授



産品がある事でした。それで、まず自分が理解するために、最初のうちは各施設を訪問し、内容・条件・授産品等を聴き回りました。そこで多くの施設の要望は、

1 製品が思うように売れない。

2 新規販売所を増やしたいが予算と販売所に行く暇がない。

の二つでした。(注・そうでない施設もありました。)

いろいろ工夫・考慮し、授産品を作製したり、販売所を探したりしている施設もたくさんありますが、多くの方は、日々の仕事が忙しく、時間が無くて多数いけないうか、予算がないということで、あきらめているようです。

私なりの結論ですが、障がい者福祉関係事業というのは、

1 「豆に歩き、一つ一つ訴えれば人は理解し、協力もしてくれる。」

2 職員の方は「意識改革し、暇がないじゃなくて、時間を作り(難しいですが)、予算の使い道を見直す。」ということだと思います。

私は、これからも、企業・施設共に、少しずつ焦らずコツコツと理解を求め、歩き続ける所存です。

尚、各施設・企業の皆様は、我々をできるだけ利用してください。今後とも宜しくお願いします。

○ 会津担当 白井 一恵 (共働作業所ピーターパン 会津美里町)

展示即売会については会津地方は雪国ため出店できる期間が限られており、アンテナショップの開催もできませんでした。平成23年5月より中合会津店、店頭にてJA会津みどりと共同出店を開催したところ、現在も月2回途切れることなく継続しております。そこで考えたのが別の場所で同じ出店ができないか?その頃、薬局の奥様より空店舗(鶴ヶ城・城前)の活用を頂きました。しかしその場所は現在、人通りもまばらで車の往來のみです。開催するには厳しすぎる・・・と不安との戦いでした。8か月の準備期間を経て平成24年7月より出店に漕ぎ着けました。準備段階としては近隣の区長、婦人連合会、民生委員、保護司、社会福祉協議会等へのアピールです。ご近所の方の協力を得てスムーズにことが運びました。新聞社、ラジオ局へ依頼、近隣への回覧板・チラシ配布、公民館や団体へのポスター掲示依頼、避難している大熊町会津出張所や仮設住宅へ宣伝、また団体や会社へ注文配り配達するとの働きかけをしました。

その結果予想を上回る売り上げがありました。施設より花輪やイス、机の提供、振興会職員、相談員との協議や店内外のセッティングと多くの方に助けて頂きました。これも皆様のご協力の賜物と思っております。

支援員として3年を迎えましたが、これからも障がい者の工賃向上を目指して、諦めず前向きに授産事業に貢献して行きたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



○ 相双担当 立谷 亨 (自立研修所ビーンズ 南相馬市)

震災から一年三か月経過し、地震・津波・放射能問題とトリプルの被害を受けた相双地区も、だいぶ震災前の落ち着きを取り戻してきました。各授産施設については、震災直後の利用者達や職員の避難による減少・人員の入れ替わり・受注していたお仕事が無くなる等の混乱した状況から、全国的な人的及び物資の支援や義援金等によって、現在は震災前の状況に回復している事業所が多く見受けられるようになりました。その一方で、各施設における利用者達の作業量はいまだ十分とは言えず、震災の一時的な支援によって何とかやり繰りしている事業所があるのも事実です。原発から20キロ圏内だったことで、地元へ帰れず見知らぬ土地で仮の作業所で活動が続けている事業所もあります。津波の被害を受けた海岸部に目をやれば、今も道路が寸断され、完全な復興には後何十年かかるのだらうと思われる地区がたくさんあります。

そういう先の見えない不安の中、この相双地区で懸命に生きていく(いかなければならない)利用者達や職員の負担を軽減するためには、これからも全国的かつ継続的な支援が必要になってくると思います。

各施設の利用者達は、震災があったことを忘れさせてくれるかのような笑顔で、我々が考える以上に、様々な支援に甘えることなく前向きにお仕事に取り組んでいます。この相双地区の現状、そしてこれからの将来は決して悲観することばかりではないと感じながら、私も一緒に頑張っていきたいと思ひます。



○ いわき担当 原田 由香 (けやき鹿島【希望の杜福祉会】 いわき市)

復興支援員になって4ヶ月。震災一年後の今は、昨年より厳しい状況であることを実感しています。福祉の世界を知らなかった私にとって、当初、自分に何ができるか自問自答の日々でした。そんな時、散りゆく桜の花を見ながら、感じたことがありました。

桜は、春に花を咲かせるために花芽を前年の夏に「形成」し、その後、「休眠」・「休眠打破」・「生成」をしながら「開花」していくそうです。私も桜のように時間をかけて準備をしながら、素敵な花を咲かせるために頑張ろうと思ひました。

今は種蒔きの時です。いつ芽が出てくるかわかりませんが、せっせと種を蒔いています。



「種」は、多くの人と会うこと、話を聴くこと、聞いてもらうことです。施設のことを知ること、また、振興会の活動をひとりでも多くの方に知ってもらい、協力いただける方を増やすことです。

たくさんの芽を出すために、水やりや肥料といったフォローも忘れずに、いっぱいの花を咲かせようと楽しみながら仕事をしています。私の仕事の原動力は利用者の皆さんです。

施設に行くと声をかけ、お茶を出してくれたり、話し相手になってくれます。商品を一生懸命作っている姿を見ると、

「これを一人でも多くの人に買ってもらえるように頑張ろう。」と思います。とてもやりがいのある仕事だと感じています。利用者さん、施設の職員、本部、支援員の仲間にサポートしてもらいながらここまで来られました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、今日も笑顔で「いってきます!」

～どうぞよろしく願いいたします。～

便利屋事業が開所しました

～まずは4施設でスタート～

山口県中小企業診断協会が東日本大震災の支援の一環として、山口県内の施設で実施している「便利屋事業」を本県の施設でも取り組んで利用者の工賃アップにつなげようと、提案されたことを受けて各施設にご案内したところ、4施設が名乗りを挙げました。

本県の4施設の担当者は7月に山口県内の施設を訪問し実地研修や懇談会を行い、また、山口県のアドバイザーから本県施設で現地指導を受けるなど相互交流を図りながら入念に事前準備を進めてきましたが、この10月から事業を開所することになりました。

○便利屋事業開所施設

- ・自立サポートセンター桜（会津坂下町）
- ・ワークショップろんど（福島市）
- ・共同作業所たいしん（白河市）
- ・共働作業所になじん舎（郡山市）



山口県での実地研修（24.7）

全国から授産品の販売支援協力

東日本大震災以降、全国の福祉団体等から本県の授産品の販売協力をいただきましたが、今年度に入っても福祉施設関係、イベント主催者、一般の方々など多くの皆様に支えられております。心から感謝です。

4月から8月までに販売協力又はご購入いただきました施設団体等については次のとおりです。

（順不同・敬称略）

No.	名 称	所在地	No.	名 称	所在地
1	NPO法人アクティブセンターうだ	奈良県宇陀市	15	社団法人埼玉県手をつなぐ育成会（全日本手をつなぐ育成会）	埼玉県さいたま市
2	たんぼぼの家	奈良県奈良市	16	社団法人京都手をつなぐ育成会（全日本手をつなぐ育成会）	京都府京都市
3	ビューティサロンモリワキ	大阪府交野市	17	NPO法人虹の家	新潟県長岡市
4	家城直子	京都府宇治市	18	社会福祉法人とよさか福祉会クローバーひしもの家	新潟県新潟市
5	京田辺市障害者生活支援センターふらっと	京都府京田辺市	19	社会福祉法人由木かたくりの会	東京都八王子市
6	京都市地域・多文化交流ネットワークサロン（希望の家）	京都府京都市	20	利根川幸子	東京都東大和市
7	京都市南部障がい者地域生活支援センターあいりん	京都府京都市	21	社会福祉法人東京都知的障害者育成会	東京都新宿区
8	社会福祉法人西陣会	京都府京都市	22	東京都セルフセンター	東京都中野区
9	社会福祉法人相楽福祉会	京都府相楽郡	23	神奈川県障害者地域作業所連絡会	神奈川県横浜市
10	相楽ディセンター	京都府相楽郡	24	鶴巻工芸	神奈川県秦野市
11	萌の里（ちいろば園）	奈良県生駒郡	25	草笛共同作業所	静岡県菊川市
12	大東市役所生涯学習部人権啓発室	大阪府大東市	26	社会福祉法人美谷会 美谷の風	岐阜県関市
13	崇仁デイサービスうるおい	京都府京都市	27	宮崎県社会就労センター協議会	宮崎県宮崎市
14	NPO法人一歩会eすべす（全日本手をつなぐ育成会）	鹿児島県鹿屋市	28	京都ほっとはあとセンター	京都府京都市

施 設 紹 介

就労継続支援事業所 すてっぷ

(福島市)



就労継続支援事業所「すてっぷ」は、昨年8月、障がい者支援の関係者や地域の方々、そして行政の福祉関係者等、さまざまな人達からのご支援とご協力を受け、市内北中央に事業所を開設いたしました。現在ご利用されている利用者さんはすべて男性の方で将来の自立した生活を目標に毎日の作業に汗を流し頑張っておられます。

事業所の一日の流れとしましては、朝の送迎から始まり9時より12時まで午前の作業を行い、昼食、昼休みの後、13時より15時までの時間



で午後の作業を行っています。現在の作業内容は、果樹農家さん等からの依頼を受けての農作業請負や自分達で作っている畑での野菜作りを主に、その他不動産会社さんや一般の方からの依頼でのハウスクリーニングや除草作業など、事業所を出て屋外作業を中心として利用者さんの就労支援を行っています。また、定期的に市内の公園等の清掃活動のボランティア活動も取り入れ、社会参加にも取り組んでおります。

新しい事業所ですが、皆さんの意見や要望を取り入れこれからも明るく元気に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

特定非営利活動法人すばる すばる作業所

(須賀川市)



皆さんはじめまして。「すばる作業所」です。私たちの「すばる作業所」は平成21年に小規模作業所から、就労継続B型事業所になって、みんなでがんばっています。

昨年から授産事業振興会に仲間入りいたしました。振興会に入って、販売の情報と一緒に販売をする方々からアドバイスなどをいただいたりして、とても助かっています。

以前から、手芸品を中心に、ものづくりをしていましたが、すばるの「ものづくり班」では昨年から「plaisir」プレジールという名称で活動しています。プレジールという名前は「よろこび」「たのしみ」を意味します。製作しているメンバーさん、買ってくださるお客様が、よろこびや楽しみで、つながることができたらうれしいなどの想いで、ていねいに製品づくりをしています。また製作工房の一部はギャラリースペースになっていて、どなたでも、御自分の作品を展示したい方に利用していただいております。製品は常時、展示販売をしています。

またエコクラフトの製品はさし色、大きさ、形などお好みに応じて注文も承っております。ぜひ1度すばるで、手に取ってご覧ください。お待ちしております。



就労支援センター 希望の里

(田村市)



こんにちは、「就労支援センター希望の里」です。平成21年1月に小規模作業所「希望の里」から、就労継続支援「B型」施設になりました。

今年6月、皆さんに誘われて仲間入りしました。よろしくお願いいたします。移ヶ岳が美しく見えるところです。定員20名、職員9名で楽しい時間を過ごしています。“0災で行こう!! よし”“皆で仲良くGO!!”と、毎朝唱和しスタートします。作業は、彼岸花（造花）づくり、箸セットの袋詰め、衣服の折りたたみ袋詰め、農作業（豆・野菜）、自前の無農薬豆・米で自家製味噌づくりです。

楽しい毎日ですが悩みが一つ、工賃が上がらないことです。皆さんの知恵と力をお借りし、頑張りますのでよろしくお願いいたします。



共同作業所 たいしん

(白河市)



共同作業所たいしん（愛称：ハッピースマイル）は、ご利用になる方々一人ひとりが主役になり、共に働き、ビジネスマナーの会得に繋がることを目的に、平成23年4月に就労継続支援B型事業所としてオープンしました。

事業の内容としては、内職作業・請負作業（受託事業含む）の2本柱です。内職作業に関しては細かい作業のため肩を凝らせながら励んでいるかたもおります。請負作業においては、原発事故後、減少

傾向にあります。しかし平成24年度社会福祉振興助成事業の一環で、「東日本大震災で被災した障がい者の自立支援と障がい者が通う施設周辺住民との絆を再構築し、新たな地域の支え合いのモデルとすること」を目的に、山口県から移転された事業「便利屋事業」に取り組み始めようとしているところです。作業内容としては、除草作業・エアコン洗浄・網戸張り替え・窓ガラス磨き等の業務を受け付け、地域住民の方々のお役に立ち、需要・供給の垣根を越えたお付き合いができればよいなあと感じております。特に高齢者宅においては、見守りも含めた、障がい者と共に支え合うネットワークを構築していきたいと思っています。「共同作業所たいしん」は、笑顔で楽しく一日を過ごせることをモットーに、利用者一人一人の夢の実現に向けた取り組みを支援していきたいと思ひます。



寄付金をいただきました。

当会が本年度実施した「経営意識向上研修会」の講師を務めていただいた、阿部憲夫様と佐藤直美様から授産事業の振興のために役立てて欲しいと寄付金をいただきました。阿部先生には研修会開催当初から講師をお願いしており、毎年、貴重なご意見と適切な指導援助をいただいております。

温かいご支援に心より感謝申し上げます。(24.9.3)



情報コーナー

◎平成24年度授産施設新製品(商品)開発コンクール及び授産施設関係職員等研修会について

平成25年2月2日(土)・3日(日)に飯坂ホテル聚楽(福島市飯坂町)において開催します。コンクールの応募と研修会の参加をお待ちしております。

◎商品力向上研修会の開催について

震災から1年有余が過ぎ復興ブームも下火の感があり、県外での販売数も落ちております。今後、県内外での購買力を強めていくためには販売価格の適正や新商品開発など諸課題が山積しております。そのため、日本セルフセンターと共催で下記のとおり研修会を開催します。

1回目 平成24年10月12日(金)・2回目 平成24年10月31日(水)

3回目 平成24年11月22日(木)・4回目 平成24年12月14日(金)

・時間はいずれも午後1時15分から3時間程度です。

・会場は、福島県農業総合センター(郡山市)を予定しております。

事務局通信

当会の事務局長を7年間務めてまいりました、浅倉 秀雄氏が、3月31日付けをもって退職されました。後任には、福祉活動推進員の齋藤 敏明氏が就任されました。

なお、浅倉氏には長年の経験をかわれて、学識経験者理事に推戴され、引き続き当会の発展のためご尽力を賜ることになりました。長い間お疲れ様でした。そしてこれからもご指導よろしくお願いいたします。

事務局体制は、次のとおりです。(平成24年4月1日付け)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ・事務局長 齋藤 敏明 | ・経営相談員 立島 孝 |
| ・障害者事業所支援コーディネーター | ・経営相談員 菅野 覚 |
| 一 條 直美 | |
| ・授産事業推進員 栃窪 喜美子 | |

編集後記

未曾有の大震災から早1年半が経ちました。原発事故による風評被害もままならない中で、昨年から引き続き支援販売にご協力くださっている全国の皆さんには感謝の気持ちで一杯です。

いつまでも甘えることなく自立の道を開拓しなければ希望の灯りは見えてきません。それこそ、会員が一丸となって知恵と英知をもって前進しましょう。

広報部会